

かめのり大学院留学アジア奨学生

## 月次報告レポート

(2023年2月)

### 一. 研究内容について

今月は無事に関西社会福祉学会の発表が終わり、発表の内容に基づいて、論文を執筆した。以下に論文の結論を簡潔にまとめた。

現在社区居宅养老服务をめぐるネットワークづくりに関する先行研究について、社区居宅养老服务の体系に焦点をあて、その体系における課題を明らかにしたうえで、今後ネットワークづくりの方向性について論じた研究が多い。それらの文献において論じている課題を整理すると、以下の2つの視点から論じていることがわかった。

本研究では、中国上海市を研究対象となった社区居宅养老服务をめぐるネットワークづくりについて、実際ネットワークの構築に参加した支援者の語りをもとに、その実態と課題を明らかにした。その結果、本研究で明らかになった5つのカテゴリーから、今後ネットワークを構築していくには、以下の3点に注意する必要がある。1つ目は、高齢者の主体的なサービス利用に関する意識を向上させ、セルフケアを支援すること；2つ目は体制制定者と現場の支援者が平等にコミュニケーションさせ、現場状況を十分に反映できる場を構築すること；3つ目は既存のネットワークの運営体制を改革し、地域全体に基づいた重層的なネットワークづくりの仕組みを構築することである。

今回は支援者が感じた社区居宅养老服务をめぐるネットワークづくりの課題に焦点をあてて分析を行ったが、今後はネットワークづくり実践のプロセスから各課題が生じる構造的な要因や、ネットワークづくりの具体的な方法について、さらなる検討が必要である。地域のネットワークづくりの方法について、日本においては、利用者のニーズに合わせてサービスが利用者に届けられていく地域包括ケアの構築が強調されている。地域包括ケアの構築について、日本の学者白澤は「ケアマネジャーによる個々の利用者にサービスを届けるデリバリー・システムを確立することに加え、利用者にサービスが届けられやすい土台となる仕組みを、生活圈域でつくりあげること」が地域包括ケアのスケルトンと指摘している。その日本の地域包括ケアを参照に、今後は中国において地域全体に基づいた重層的なネットワークづくりの仕組みのあり方について検討していきたい。

### 二. 生活について

博論の下書きを先生提出する締め切りが近づいてきて、この何か月間はずっと研究室で論文を書いています。今月も一日でも外出する機会や時間がなく、家と学校を往復するだけの毎日が繰り返されています。時々論文がどうしても書けなくて、落ち込んだり、一つのタスクである投稿論文や章が完成したら満足したりして、最近感情の寄付が激しくなっています。そのような状態はストレスに由来したと意識して、何かをしてその状況を改善したいと思っています。

コロナ以前は奈良が大好きで、奈良公園で鹿と一緒に散歩すると心身も浄化されると感じました。そのため、今回も気分転換で一回奈良へ鹿を見に行きました。しかし、たぶん潜在意識にずっと論文を心配しているため、気分転換のためだとわかっても、一日論文を書かずに遊びに行くことは逆に自分に罪悪感をもたらしました。

また何かをして今の状態から脱出しなければならないと思って、では外見から変えようと決めました。「髪を切りたけれど、いざ切ったら後悔してしまうかも」何回も何回も迷いましたが、夜の

12時半くらいに思い切って自分で髪を切りました。自分で切ったからか、以前美容院で切った髪型より満足しています。髪型がスッキリになったからか、気持ちも少しスッキリになりました。その効果はどれくらい維持できるかがわかりませんが、きっと私の「自力救済」が成功したと信じています。